Japan Hang & Paragliding Federation ●http://jhf.hangpara.or.jp

JHFレポート205号
2014年4月20日発行

JHFREPORT

富士山に向かってテイクオフした平木啓子さん。2013年11月、ブラジルで日本記録を更新した。（6ページからの記事をご覧ください。）撮影:小久保陽一

（6ページからの記事をご覧ください。）

2014年度JHF事業方針と予算

JHFが公益社団法人となって4年目の年度が始まりました。新年度事業計画の策定にあたり、次のように事業方針と予算を決定しました。

会員の皆様とともに事故ゼロ=普及をめざし、会員増加のためにさまざまな方法を検討、実行していきます。

事業方針

フライヤー会員数を増加させること、とくに若手会員の増加を図ることが、フライヤー年齢の高齢化に歯止めをかけ次世代につなぐための重要な課題であると認識し推進していきます。競技についても、スカイスポーツ発展のためだけでなく、普及のためにも積極的に活用する方法を検討していきます。

普及のためにも安全対策は重要です。フライヤーの高齢化をふまえ健康がフライトに与える影響などの安全啓蒙活動を続けていきます。

また、フライヤーの自覚を促す啓蒙活動だけでは事故を防ぎきれませんので、安全のための一般的なルール作成の検討に着手します。

予算

2014年度予算の収入と支出の内訳を次ページのとおりグラフにしました。会員の皆様の会費や申請料などが、JHFのどのような活動に活かされていくのか、ご覧ください。

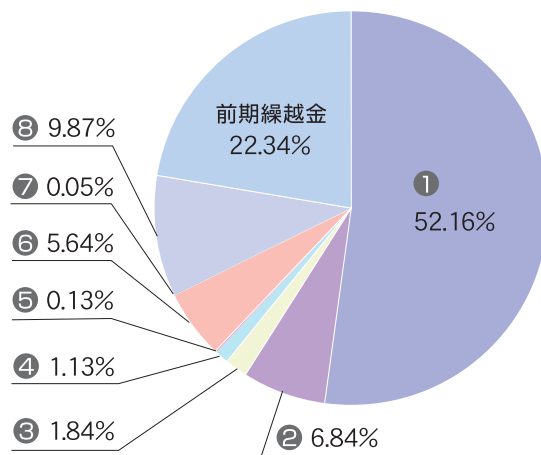
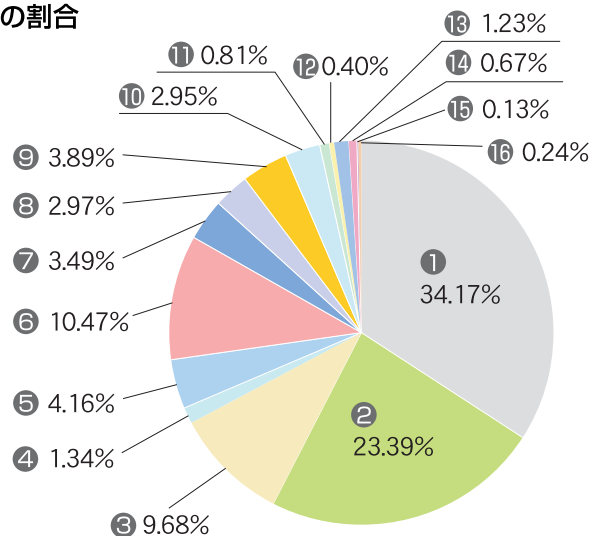
JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

ゆっくりじっくりフライト再開

クロスカントリーシーズンまっただなか。今日も記録に挑んでいるパイロットがいる一方で、冬期クローズのエリアではこれから空に戻る方も。ゆっくり確実にフライト感覚を取り戻してから「本気モード」に。

収　入	（単位:円）
❶会費等	38,864,000
❷技能証の発行に基づく収入	5,100,000
❸競技に関する収入	1,370,000
❹教本等の頒布に伴う収入	840,000
❺検定会参加費	100,000
❻補助金	4,200,000
❼機体登録費	40,000
❽その他	7,354,000
前期繰越金	16,642,086
合　計	74,510,086

支　出	（単位:円）
❶会員サービスのために	25,460,000
❷JHFの維持運営のために	17,430,000
❸都道府県連盟の補助のために	7,210,000
❹公益事業の推進のために	1,000,000
❺世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	3,100,000
❻広報・普及活動のために	7,800,000
❼日本選手権や国体デモスポのために	2,600,000
❽競技のために	2,210,000
❾よりよい教習環境のために	2,900,000
❿委員会活動のために	2,200,000
⓫補助動力のために	600,000
⓬学生の補助のために	300,000
⓭事故調査や安全のために	914,000
⓮海外との交流のために	500,000
⓯制度のために	100,000
⓰総会のために	180,000
合　計	74,504,000

収入の割合

支出の割合

委員会の活動計画

JHFのさまざまな事業の原動力である各委員会は、2014年度に次の活動を計画しています。また、３月31日の各委員任期満了にともない、下記の方々を2014年度・2015年度の委員として選任しました。

□安全性委員会
・事故情報の収集と管理
・事故調査報告
・ハンググライダー機体整備票の運用
・JHFウェブサイトから入るブログ形式のハンググライダー安全管理情報の公開運用
・機体登録制度の推進
・安全セミナー開催のためのプログラム作り
・パイロット証保有者への安全セミナーの全国展開
委員：伊尾木浩二、桂敏之、西本一弘、目黒敏、山本貢

□教員・スクール事業委員会
・教員/助教員更新講習会の開催及び支援
・SIVトレーナー新資格についての検討
・インストラクターマニュアルの検討
・レスキューパラシュートリパック認定証学科問題の見直し（安全性委員会と合同）
・安全セミナープログラムの作成（安全性委員会と合同）
・スクール、エリア管理者の相互連絡網の立ち上げ
・ハンググライディング教本の改訂
委員：伊尾木浩二、岩橋亘、桂敏之、小林秀彰、坂本三津也

□HG競技委員会
・ルールブックの改定
・WEB登録によるエントリーの簡素化
・女子世界選手権、クラス5世界選手権、クラス1スポーツクラス世界選手権への選手派遣（フランス、アネシー）６月21日〜7月5日
・クラス１日本選手権の開催　2014年３月19日〜23日　板敷山
・HGシリーズとクロスカントリーリーグの活性化と支援
・HGシリーズとクロスカントリーリーグの管理運営
・HG競技委員会ホームページの管理運営
委員：板垣直樹、北野正浩、鈴木由路、松村貴博、牟田園明

□PG競技委員会
・ルールブックの改定
・WEB事務局／ホームページ管理
・Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理
・J2リーグの活性化・支援
・2014年PG日本選手権の開催　開催地／時期未定
・2014年PGアキュラシー日本選手権の開催　開催地／時期未定
・PGアキュラシーアジア選手権（マレーシア）選手団派遣　３月12日〜19日
・2014年第４回アジアビーチゲーム（タ

・PGアキュラシー競技に選手団派遣　11月10日～21日
・2015年PG世界選手権（コロンビア）選手団派遣　1月10日～25日
・ホームページの充実（タイムリーな大会結果のアップ）
・アキュラシーターゲットの新調
委員：岡芳樹、上山太郎、児島彰、成山基義、村上修一、水野良信、山谷武繁

□制度委員会
・JHFに関わる制度の定款、規約、規程、規則等の文書管理
・理事会諮問事項の対応
・ハング教本作成に伴う技能証規程の改定検討
・補助動力パラグライディング副読本に伴う技能証規程の改定検討
・トーイング技能証規程の研究
・公益財団法人日本体育協会の組織の研究
・PG教本の改訂準備
委員：泉秀樹、井上潔、小林秀彰、中瀬誠

□補助動力委員会
・補助動力副読本の制作（編集最終段階）
・アキュラシー大会協力（トーイング技能の経験対応／トーイング教本作成準備）
・MPGの事故や苦情の対応（MPGの連絡網や対応の速さを追求）
・フライヤー会員登録の推進と安全講習会の開催（会員登録を増やすための講習や大会企画を予定する）
委員：伊尾木浩二、須藤彰、橋田明夫、宮本司、椋本清治

□ハングパラ振興委員会
・展示会へ配布物、写真、映像等の提供と活用
・WEB更新
・ハンググライダー普及委員会との連携とパラグライダー普及への検討
・フォトコンテスト
・振興パンフレットの作成
委員：井上潔、福田武史、堀江譲、松田晃明、山口隆文

JHFの動き

ハンググライダー安全セミナー 同窓会的雰囲気でブラッシュアップ

2013年度事業として安全性委員会が提案した、ハンググライディングパイロットを対象とした安全セミナーの第3回を3月8日、9日に茨城県桜川市の桜川滑空場にて開催しました。講師は坂本三津也氏。

8日：12名参加。晴れ、南西のち北西の風強く、サイド及びサイドフォローとなる条件

9日：10名参加。曇りのち晴れ、東のち南の風、サイド及びサイドフォローとなる条件

関東近郊のハングパイロットが集まり、久しぶりに顔を合わせる同窓会的雰囲気で開催。ベテランの方、ブランクのある方が改めてテイクオフ、ランディングの指導を受け練習。8日午後には板敷エリアで開催中のトントントンカップ参加の学生フライヤーも見学に来て盛況でした。

9日、穏かな午前中はフリートウも実施。連日参加の方もいて、特にランディングの技術向上は著しいものがありました。夕方、足尾エリアから駆けつけた学生フライヤーの馬場峻司君がフライトし、お手本となるランディングを見せてくれました。

初心に戻って坂本講師（左端）の説明を聞く参加者。

安全性委員の伊尾木氏によるマルチコプターで撮影した映像もyoutubeでご覧いただけます。ioki1017

このセミナーは、セーフティートーイングを使用しているため、斜面を登っての練習ではなく、平坦な所で行いますので簡単に移動ができます。

今後も開催していきますので、機会がありましたらぜひ参加して、技術をブラッシュアップしてください。

教員検定員研修検定会 指導者の在り方を学んだ３日間

３月24日～26日、JHF教員検定員研修検定会を東京都府中市にて開催しました。2013年度までの教員検定員の任期満了を迎え、2014年度からの検定員を認定するために、全国から各都道府県連盟の推薦を受けた34名の候補者に参加していただき、３日間の研修・検定を行いました。

スポーツ指導者の役割、スポーツと法などの研修のほか、国内外のコンペシーンで活躍する呉本圭樹氏による競技について、日本ロープレスキュー協会の堤信夫氏による山岳救助テクニック、航空工学博士の赤坂剛史氏によるモーターパラ、アクロのメカニズム等の特別講義もありました。

JHF教員検定員制度は、全国各地においてハンググライディング、パラグライディングの健全な発展と安全確保、技能レベルの標準化など、指導的役割を担っていただく方を認定する重要なものです。今回の参加者で筆記試験と実技検定の合格者が、教員検定員として今後３年間活動します。検定員が確定したら、JHFレポート／JHFウェブサイトでお知らせします。

教員検定員研修検定会に参加の皆さん。お疲れさま。

2014年JHF通常総会を開催 傍聴のご案内はウェブで

６月17日（火）に、2014年のJHF通常総会を、東京体育館（東京都渋谷区千駄ヶ谷1-17-1）会議室で開催します。

傍聴をご希望の方は、後日JHFウェブサイトでご案内しますので、そちらをご覧のうえ事務局にお申し込みください。インターネットを利用できない方は、事務局までお問い合わせください。
TEL.03-5834-2889

フランスでHG世界選手権 日本チームにご声援を！

６月21日から７月５日までフランスのアネシーで、女子・クラス５・スポーツクラス、三つのハンググライディング世界選手権が開催され、日本チームが参加します。熱いご声援を！

2014年CIVL総会から

国際航空連盟（FAI）の国際ハンググライディング・パラグライディング委員会（CIVL：フランス語で『自由飛行委員会』の略）の総会と小委員会が今年も２月に開催されました。

日本を代表するデレゲート（委員）としてJHFが推薦した岡芳樹さんが、日本航空協会より派遣され、また、オブザーバーとして北野正浩さんが参加しました。以下は岡さんの報告です。

日程：小委員会　２月20日・21日
　　　総　　会　22日・23日
会場：クタ（インドネシア）
　　　グランド・イスタナ・ラマホテル
参加国：27ヶ国（委任状4ヶ国含む）

議決事項：

ハンググライディング（HG）／パラグライディング（PG）共通

1.距離の測定

距離の測定はWGS84エリプソイドを採用する。また、2015年１月１日以降、誤差は0.01％（ただし最小値は5m）とする。

2.高度の測定

高度の測定はGPS高度を採用する。ただしWGS84ジオイドとするかは理事会に委ねる（決定は2014年５月１日まで）。

3.真高度の使用

ローカルルールに明記し、大会最初のブリーフィングで承認された場合は、真高度（GPS高度を、気圧高度を考慮して実際の高度に近づけた高度）をタスクにおけるスコアリングの目的（侵入禁止空域の判定には使用しない）で使用する。

ハンググライディング関連

1.飛行禁止空域

2.29.2 Controlled Airspace（飛行禁止空域）に関して：
従来は、禁止空域への進入が100mまでなら１回目で警告（ペナルティなし）、２回目でそのタスクのスコアゼロ（100m以上の進入は1回でスコアゼロ）であったが、今後、禁止空域に100mまで近付いたら警告（ペナルティなし）で成績表に掲載。禁止空域に30m以上進入したらそのタスクのスコアゼロ（30mは計器誤差を考慮）とする。これは、フライト全体が対象となる。タスク実行中かストップされたかを問わず、ゴール前か後かも問わない（※フォーブスでの問題を反映）。

2.ヘルメット

カテゴリー１大会で使用できるヘルメットとして、EN966（スカイスポーツ）だけでなく、EN1077 A・B（スノースポーツ）やASTM 2040（スノースポーツ）やSNELL rs98（スノースポーツ）も許可する。

3.タスクストップ時の高度

タスクストップ時の高度を得点に反映させる。滑空比５：１で計算して得点を加える。

4.リスクコントロール条項

タスクブリーフィングにおいて、公式の気象予報と最新の気象データと共に、リスク評価つきで暫定タスクを発表する。選手の意見を集め、タスク変更を考慮する、というもの。タスク終了後、選手はトラックログと共にフィードバック（タスクの安全度に関する意見）を無記名で提出する。セーフティーコミッティーとセーフティーディレクターは、リザルトとフィードバックを見て、見落としや改善点がなかったかを検証する。2015年１月１日から適用する。（※フォーブス世界選手権に関するタスク無効の申し立てがあったが、改善のための行動を起こすことで取り下げが決定。これを考慮したもの。）

5.SAFEPRO

SAFEPRO（HG）に新たにコンペレベルを追加して６段階とする件は、さらに揉んでHG委員会で討議して再提出する。

パラグライディング関連

1.参加資格

WPRSとして大陸WPRSも設ける。ヨーロッパ選手権の参加資格として、現行の「WPRSランキング400位以内」の文言に変えて、「ヨーロッパWPRSランキング400位までに入っていること」に変更する。

2.飛行禁止空域

飛行禁止空域に関して、地図のみでなく、オープンエアー.TXTフォーマットで提供されることとする。また、ペナルティは平面及び高度共に境界から20mに接近した時から始まり、近づく距離１mに対し２％の減点を科す。したがって

総会で投票に臨む各国デレゲート。

境界内30mに侵入した時点でそのタスクはゼロスコアとなる。この判定はテイクオフからランディングまでの全軌跡に対して行われる。

3.ヘルメット

カテゴリー１大会で使用できるヘルメットとしてEN966以外に、ASTM2040（スノースポーツ）、SNELLrs98（スノースポーツ）認証取得ヘルメットも含むものとする。

4.機体

現行のS7B11.1.1.3では2014年において、EN認証を取得している機体を使用するにあたっては、改造していないとの宣誓書を提出するようになっているが、これを廃し、2014年のヨーロッパ選手権及びパン・アメリカン選手権においては、グライダーコントロールが実施されるとローカルルールに明記し、何がどのようにチェックされるかについても明記する。規準としては新たに決定されたCIVLコンペクラス（CIVL COMPETITION CLASS）規準とする（次ページ参照）。

PGアキュラシー関連

1.無線機

S7C2.18.1：無線機は、フライト中はコーチングやアドバンテージを与えるような情報を伝えられないことになっていたが、管理が不可能なので、自由に使用できるようになった。

2.ターゲット

S7C2.21.6.4：「他の選手との空中接触を避ける安全上の理由で、ターゲットを狙わなかった場合」とあるのを、他の選手との空中接触を避けるという文言を削除する。

3.高度差

S7C5.5.1：エリアの条件として規定されていた「高度200m」の文言を削除する。したがって今後は高度差が200mなくてもカテゴリー１大会を開催

することが可能となる。

4.リリース高度

S7C5.5.2:トーイングでのリリース高度規定として150mがあったがこれを削除する。

5.DCサイズ

DCのサイズを現在の3cmから2cmに変更する。この規定は2014年5月1日以降のカテゴリー1大会に適用され、カテゴリー2大会では2016年1月1日以降に適用される。

6.チャンピオンの参加

現チャンピオンは、チームメンバーとして選抜されなかった場合、個人タイトルを守るために参加できるものとする。

7.記録公認

記録公認の最小値として:連続DCに関しては3回、連続5cm以内は5回とする。

8.記録申請

記録あるいはバッジを申請できるラウンドは、FAI公認大会におけるもの(最終結果に反映されるもの、つまりキャンセルとなったラウンドは無効)とする。記録に関しては、複数のFAI公認大会に渡って有効とする(つまり、あるFAI公認大会の最終ラウンドでDCを踏んだ場合、次のFAI公認大会の1ラウンドにDCを踏めば、記録の可能性が継続することになる。また、あるFAI公認大会の間に参加したFAI非公認の大会での結果は無かったものとして扱う)。

選手権の承認

□2016年PGヨーロッパ選手権:マケドニア　7月9日〜23日
□2015年HG/PGアクロバティック世界選手権:フランス　8月26日〜9月6日
□2016年PGアキュラシーアジア選手権:カザフスタン　5月27日〜6月3日
□2016年PGアキュラシーヨーロッパ選手権:リトアニア

表彰関連

□FAIゴールドメダル:Bill Moyes(オーストラリア)
□HGディプロマ:無し
□ペペ・ロペスメダル:無し

その他

1.FAIスポーティングライセンスのデータベースがようやく稼働した。2014年から、このデータ・ベースに掲載されていないスポーティングライセンスは無効とみなす。
2.アンチドーピングに関して、FAIにおいては2013年は問題は起きなかった。
3.オーストリアでのフライトに関する情報:HG/PGに関して発行されたライセンスが法的根拠のあるもの(端的には、国が規定するライセンス。日本でいえば国交省)でなければ認めない(つまりJHFの技能証ではダメということ)。そのようなライセンスを持っていないパイロットはオーストリアではフライトできない。ただし、公認大会に参加する選手はその限りではない。IPPIカードは認められていないので、CIVLはFAIと協力してIPPIカードを認めるようにオーストリアのオーソリティに要求することとする。

次回総会

2015年総会開催の立候補がセルビアからなされ全会一致で承認された。開催場所はベオグラードに決定。日程は未定だが、例年通り2月の予定。

CIVLコンペクラスに関して
(昨年導入したCIVL ENコンペクラスの文言は、まだEN規準となっていないため使用できないのでCIVLコンペクラスとする)

A) CIVLコンペクラス(CCCと略す)の要約

1. EN認証規則(EN926-1,EN926-2)をベースとして使用する。
2. アクセルの可動範囲を制限することでトップスピードを制限する。
3. アスペクト比を2013年12月31日現在でEN認証を取得しているグライダーの最大の値までに制限する。
4. ライザーは認証を取得したトッピスピードを超えることができないようなものとする。
5. カテゴリー1大会の前に、広範囲のパイロット体重をカバーするように、複数サイズが入手可能でなければならない。
6. 荷重試験はEN基準に準じる。
7. ライン強度試験は各サイズに対して実施することができる。
8. このクラスのグライダーに不適切な飛行試験項目は行わない。
9. 潰しからの回復試験において、パイロットは3秒後に回復操作を開始する。
10. (必要であればコンペハーネスを使用して、)飛行重量範囲の上限で飛行試験を行う。
11. 取扱説明書に、グライダー操作、保守に関する情報を掲載する。
12. グライダーが認証取得したものと合致しているかを確認するために、明確、正確かつ実施が容易な計測、試験方法を追記する。

B) スケジュール

2014年1月2日:2015年提案最終版を公表する(実施済)
2014年2月22・23日:CIVL総会で、公表された提案を承認するかを決議(承認済)
2015年1月1日:上記総会で承認されれば決定は有効となり、以降2年ごとに改定される。
2015年終盤:2017年版の提案を公表する。
2016年初頭:CIVL総会で2017年版の承認を決議。
2017年1月1日:上記総会で承認されれば2017年版は有効となる。

C) CCC クラスに要求される事項

1. 最小サイズの飛行最大重量と、最大サイズの最大飛行重量の差は25kg以上(2016年1月1日以降は35kg以上)とする。
2. 最小サイズの飛行最大重量は100kg(2016年1月1日以降は90kg)とする。
3. 展開アスペクトは7.90以下とする。
4. アクセルのレンジ(Bライザーに対しAライザーの引き下げ量)を18cm以下とする。また、それ以上引かれないような造作とする。
5. 実施しない飛行試験項目:
*ロール安定及び減衰
*緩スパイラル安定
*低速スピン傾向
*スピンからの回復
*Bラインストール
*翼端折り(トリム速度および加速状態共に)
6. 取扱説明書に掲載される事項:
*グライダー寸法(センターコード長、4分の1スパンでのコード長、スパン、トレーリングエッジ長)
*ライン取り付け位置
*ライン取り付け図およびライン寸法
*ライザー見取り図および寸法
*アクセル可動範囲
*EN-D認証機と比較しての飛行特性
*最大飛行重量でのリアライザーの対称引き下げ可能長さ
*SIVに関しての特記事項
*ライン長測定方法及びトリム方法
7. 認証取得日は、認証に必要なすべての資料がCIVLに到着した時とする。
8. 許容誤差:
*スパン(±2%)
*コード(±1%)
*トレーリングエッジ(±1%)
*ライン取り付け位置(コード方向に対し±10mm、取り付けリブは変更がないこと)
*ライザー(±5mm)
*アクセル可動範囲(±5mm)
*ライン長(±10mm)
*迎角ライン長(相対するライン群が共に20mm加速方向にずれていないこと)
*スパン方向の相対する2ラインの組が本来のライン長から±50mmずれていないこと
*翼型寸法(誤差は±1%または5mmのどちらか大きいほう)
9. EN認証取得機でカテゴリー1大会に参加可能なものは:
*EN−A,B,C認証を取得しているもの
*EN-D認証を取得しているもので以下のどれかに合致するもの:
1)取扱説明書に記載された展開アスペクト比が7.0以下のもの
2)CIVLのホームページに以下の全項目を満たすと掲載されているもの
・2014年5月1日より前に認証取得している
・CCCに要求されている寸法基準を満たす
・シリーズの最新版により置き換わっている
3)CCC認証を取得しているもの

いつも前を向いて飛び続ける。

パラグライダーパイロット　平木　啓子

2013年11月19日、ブラジル北部で、パラグライダーによる直線飛行日本記録が書き換えられた。キシャダからピリピリまで332km、実に21年ぶりの記録更新だ。パイロットは、国内外の大会で活躍を続ける平木啓子さん。記録挑戦から2ヶ月後には、ワールドカップ女子チャンピオンの座を勝ち取った。その強さ、その前進の原動力となっているのは何なのか。静岡県朝霧高原に平木さんを訪ねた。

世界記録への挑戦で
純粋に飛ぶことを楽しんだ。

◎平木さんは、女性パイロットの憧れであり、追いつき追い越すべき目標だ。1995年、32歳でパラグライディングに出会い、スクールの遠藤洋二さんや、同じエリアの先輩である小西康成さんの影響を受け「ごく自然に」競技を始めた。2002年の日本選手権で女子１位となり、国内初タイトルを手に。翌年には海外の大会に初参戦。以来、2008年日本選手権総合優勝をはじめ、多くの勝利を手にしてきた。そのコンペティターが初めて世界記録に挑戦。結果は世界記録には及ばなかったものの、21年ぶりの日本記録更新となる。なぜ、いま記録飛行にも目を向けることになったのだろうか。

「何年か前、いつも大会で競い合っているチェコのペトラが、ブラジルで女子世界記録を更新したんです。それで、いつか自分も挑戦したいと思っていたんですが、大会にエントリーするのと違って、オーガナイザーがお膳立てしてくれるわけじゃなく、どんな準備をすればいいか見当もつかなくて。動き出さずにいたところに、聖子ちゃん（福岡聖子さん）が336.4kmで世界記録を更新したという情報が入って、俄然、やるぞ!と。やらないでいれば、いつまでもできないですから。

本格的な準備は出発の2ヶ月ぐらい前からですが、動き出してみると、やらなくちゃいけないこと、用意するものが思ったより多くて、たいへんでした。FAIの公式立会人を探してコンタクトをとって、渡航ビザ、航空チケットや宿、レンタカーや現地ドライバーの手配をして、強力な車載無線機と巨大アンテナや15分毎に自分の位置情報を発信するSPOTを購入して、ブラジルのNAC（National Aerosports Control）への申請や日本のNACである航空協会に計画書を提出して……。『一緒に挑戦するよ』といってくれたイタリア人の友達がポルトガル語も話せるので、準備に大活躍してくれて、とても助かりました。長年いろいろな国で飛んできて、たくさん友達ができて、彼らは私にとって一番の財産ですね。」

◎記録飛行のテイクオフは、ブラジル北部、セアラー州のキシャダ（Quixada）。海から220kmほど内陸に入った都市で、10月～12月は海からの安定した風（やや南寄りの東風）が吹く。風が非常に強いため、挑戦者は朝のうちに離陸して、リッジで高度を上げながら、西北西に進み始めるタイミングをはかる。

「朝のうちといっても穏やかじゃないんですよ。とにかく強風。テイクオフディレクターの判断を頼りに、朝７時 50分に離陸しました。それからサーマルタイムが始まるまで、切り立ったリッジで少し出ては戻りを繰り返しながら待たなくちゃならないんです。そこを耐えて、サーマルが発生し始めたら、ようやくスタート。でも、サーマルがまだ弱いから油断できなくて、70km先のマダレーンまでが一番難しいパートです。私も一度は対地100mを切るほど下がっちゃいました。

この日は10人ぐらいが飛んだんです

スキー、バイク、乗馬……バランス系が好き。撮影:小久保陽一

強風のキシャダから飛び立った先には雲の連なりが。

けど、途中から一人旅になってしまって。風が強いから、他の人とはぐれてしまうとなかなか追いつけないんです。でも、低くなると、カラスみたいに好奇心の強い鳥がどこからともなくヒューって寄ってきて、一緒にサーマルを探してくれるんですよ。遊んでるみたいで、あれはいい鳥でしたねぇ。助けられました。

200km進んだノバルーサスまでは、キシャダにつながるアスファルトの大きな道路があるんですけど、西側は空からでもわかりにくいダートロードばかり。しかも森が多くて、降ろせる場所が極端に少なくなるんです。回収ルートを考えながら進むので、どうしても速度が遅くなってしまうんですね。320km付近の街、ピリピリを超えたところで、残り時間は30分ぐらい。直線距離を伸ばすために、道路から離れて最後まで直進するという手もありましたけど、そうしていれば聖子ちゃんの記録は破れると思ったけど、２週間ぐらい前にイタリアのニコルが376.5km飛んだのを知っていたし、ここで無理することはない、次回があると思って、少し戻る感じで道路沿いにランディングしました。」

◎ピアウイ州ピリピリ（PiriPiri）の南西にランディングしたのが、17時14分。346.3km（このうち直線の332kmが公式日本記録として認定された）、９時間24分のロングフライトだった。まず、これほど長く集中できることがすごいと思うが……。

「高度を上げて、次のサーマルをみつけるまでは、ちょっとぼんやりするときもあるんですよ。低くなっちゃうと、降りないように集中が切れることがないですけど。長丁場なんで、スポーツ系の栄養ドリンクと、ブドウ糖の固まりやビスケットも携行して、紙おむつを装着してのフライトでした。水分補給はしましたけど、食べようという気が起きなくて、何も食べなかったですね。幸いなことに、おむつは使わずに済みました。

もちろん疲れましたけど、自分でも意外なことに、もっともっと飛んでいたかったんです。北海道で飛んでいた頃、ニセコからルスツ、その先の30kmぐらいをクロスカントリーするのが流行ったんです。それがすごく楽しかったことを思い出して……とても久しぶりに、純粋に飛ぶことを楽しんだなって感じます。

広大な乾いた大地の上空をひとり進んでいく。低くなると鳥が助けてくれた。

今回は200kmから先は初めて飛ぶところだったので、スピードが遅くなってしまいましたけど、２回、３回と経験すれば、もっと速く飛べて、400kmも夢じゃない。世界記録、今年もぜひ挑戦したいです！」

勝ちたいと思うのは
応援してくれる人のため。

◎世界記録への挑戦から2ヶ月。平木さんは再びブラジルに渡った。ワールドカップ（PWC）2013シーズンを締めくくるスーパーファイナルに出場するためだ。舞台は、数多くの大会が開かれてきたゴベルナドル・バラダレス。1月14日〜25日に９タスクが成立。前半ではリードされていた平木さんは、最後の３タスクで素晴らしい追い上げを見せ、みごと逆転、2013年ワールドカップ女子チャンピオンの座を獲得した。

「ずっと女子4位だったんですよ。３位の人と僅差で、最終的に４位で終わる可能性が高かった。もし４位なら、5位でも６位でも同じ。それで、最後に相当リスクを負った飛びをしたんです。降りちゃうかもしれない、でもこのままの高さでゴールしたら、かなりの高得点という飛び。表彰台に上がりたい一心で勝負に出て……１位までいけるとは思ってなかった。久しぶりにそういう飛びをしたって感じですね。

優勝は、まだまだやれるという自信につながりました。しばらく大きなタイトルから遠ざかっていて、周りから『もうトシだから』なんていわれていたんですけど、それを打ち破ったというか……まだできるぞと証明できたのが嬉しかったですね。」

◎これまでも国内外で多くのタイトルを勝ち取ってきた平木さん。競技の魅力、おもしろさをどんなところに感じているのだろうか。

「苦労して、苦労して、高度を上げて、戦略を立てて、ゴールする。その達成感が好きですね。あとは、普段エリアでは限られた範囲しか飛ばないけど、競技だとすごく広い範囲を飛べるのもおもしろいですよね。知らない土地でも、大会だったら、いろいろな情報をもらえて、地元のパイロットが一緒に飛んでくれるし、気象ブリーフィングもしてくれる。新しいところを飛ぶにあたり大会に出るのはいいと思いますよ。」

◎競技に対する熱意は、ときに自分自身を追い込むことにもなるだろう。結果が出せず苦しむ時期もあるだろう。しかし、平木さんはいつも明るい笑顔で表彰台に戻ってきた。その頑張りの源泉となるのは、応援してくれる人たちの喜ぶ姿だという。

「優勝すると、応援してくれる人たちに喜んでもらえるので、それはとても嬉しくて、次へのモチベーションになっています。勝てないことが続くと、つらいですね。応援してくれる人たちにご恩返しできないのが、一番つらいかなぁ。

勝てばもちろん自分でも嬉しいですけど、私にとっては、『どんな飛びをした

ゴベルナドル・バラダレスでのワールドカップスーパーファイナル。思い切った飛びで逆転勝利。

か』が大切なんです。コンディションをどう読んで、どんな戦略で飛んだか。自分自身が納得のいく飛びができたか。だから、実は勝っても負けても楽しんでいるんです。

いい飛びができないとクヨクヨすることもありますよ。でも、あまり長続きしないんです。忘れっぽいというか、気持ちがすぐ前を向く。何か楽しいものを見つけちゃうと、盛り上がる。細かいことが気になるわりに、物事にこだわらないし。常にポジティブですね。

大会に出始めて間がない頃、怖いもの知らずで突っ込んでいって怪我をしたこともあります。でも、自分に何が足りなくて怪我をしたのかがわかっていたから、競技をやめようとは思わなかった。レスキューパラシュートを投げてダウンプレーンを起こしたこと、ものすごく気流が悪くなって本当に必死で降ろしたこと、いろいろありますけど、『こうすれば防げる』とか『こうしたらもっとよくなる』と考えることで、また次のフライトに踏み出せるんです。」

恐れずに自分の道を飛ぶ そんなパイロットでありたい。

◎平木さんは大学の工学部航空宇宙学科に学んだ理系女子。ものごとを理論的に捉えて自分の考えを構築する力は、競技の場でも大いに活かされているようだ。自分自身で考え選択したコースではなく、ただ先行パイロットについていくのは、潔しとしない。

「私が目標にしているというか、好きなパイロットはペトラなんです。スピードが違うんで、競技では男の人が先行して女の人がついていくことになっちゃうんですけど、彼女は、いつも恐れずに自分の道を飛んでくるんですよ。リスクも大きいのに、ずっとそのスタイルで勝ってきた。お子さんができてから少し飛びが変わりましたけど、やはり彼女のようにありたいと思います。

私は、体重が軽いこと以外、女性であるために不利だと思うことはありません……といいつつ、実は私、とんでもなく方向感覚が欠如しているんです。道が覚えられないし、景色も覚えられない。女性は地図を読めない人が多いって聞きますよね。その点は男の人が有利かな。」

◎平木啓子という世界で活躍するパイロットが、道を覚えられないとは、意外。平木さんを目標とする女性たちには、ちょっとほっとする話かもしれない。2013年女子日本選手権者となった際、「簡単には勝たせてもらえなくなった」とコメントした平木さんから見た、日本の女性競技者は?

「みんなレベルが上がってきてる。世界を舞台に戦えるところまできてる。海外には海外の飛び方があります。日本だけで飛んでると限界がくるんで、年に一回でもいいから外国に行って、経験を積んで自分を磨いていけば、どんどんいけると思います。パラやってる外国の女性は小柄な人が多いから、体格の差もないし。日本の社会は長い休みを取りにくいですけどね。」

2013年ワールドカップ女子チャンピオンに。

◎平木さんは、現在50歳。誰しも、加齢とともにあらゆる身体機能が低下する。しかし平木さんは、加齢による影響も寄せ付けず、むしろ進化しているかに見える。日頃、いい飛びをするためにどんなことを心掛けているのだろうか。

「私は、55歳までは競技をやりたいと思っていて、その先は、またそのときに考えようと思ってます。世界では、女の人が競技に出てくるのって、けっこう短かいんですよ。怪我したりして、4～5年で競技をやめちゃう人が多い。だから怪我しないように、成績にかかわるような場面でも、リスクより安全をとることが多いですね。ランディングは特に注意します。年齢的に、怪我してしまったら復活に時間がかかりそうだし。

日頃から体を動かすことはしています。体力がないと集中力が続かないので、体力だけは衰えさせないように。バーベル上げたり、歩きでテイクオフまで行ったり、陽気がいいときは自転車通勤してます。約10km、高度差400mぐらいを上がってくる。きついですけど、季節の変化を楽しみながら。ただ走ったりするのは、好きじゃないですね。」

◎今後の目標とするのは、女子世界選手権者、そして世界記録更新。では、競技や記録以外でやってみたいことは?

「富士山から飛んでみたい！　朝霧にいるのに、富士山に一度も登ったことないんですよ。世界中の山から飛んでみたいけど、まずは富士山です！」

スクールの参加者･同僚とポーズ。撮影:小久保陽一

平木啓子さんプロフィール
1963年、北海道生まれ。大学でハンググライダーのサークルに入り、初滑空。社会人になってハングはやめてしまったが、北海道に戻っていた1995年、パラグライダーの性能が上がったと聞いてスクールへ。2002年、女子日本選手権者となり初タイトル獲得。翌年、勤務先の閉鎖にともない本格的に競技に打ち込み、海外大会で初優勝。以来、派遣やアルバイトで生計を立てながら数々のタイトルを勝ち取ってきた。2009年、スカイ朝霧に就職。インストラクターとして多くの人に飛ぶ楽しさを伝え、さらに世界への挑戦を続ける。
主な獲得タイトル:02年／07年／09年11年／13年日本選手権女子1位、08年日本選手権1位（日本史上初の女子選手による総合優勝）、09年／13年ワールドカップスーパーファイナル女子1位、12年アジア選手権女子1位（総合3位）

日本記録更新のフライトログ
フライトログが公開されているページ
http://xcglobe.com/
Daily flightの19.11.2013のフライト

飛んでいると見たことのないような景色にしょっちゅう出くわすのが楽しい。撮影:小久保陽一

第3回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト 作品募集!

JHFは、ハンググライダーやパラグライダーが写真を通じてできるだけ多くの人々の目に触れることが普及のために必要であると考え、フォトコンテストを開催しています。

第2回では、フライヤー以外の方も含め全国から248点の作品が寄せられました。まことにありがとうございます。今回、第3回もハンググライダー、パラグライダーの楽しさを伝えられるような作品、多くの方々からのご応募をお待ちしています。

【募集要項】
主催者:公益社団法人日本ハング･パラグライディング連盟
テーマ:ハンググライダー、パラグライダーの楽しさ、美しさを表現した写真作品
募集部門:
1.空撮部門
ハンググライダー、モーターハンググライダー、パラグライダー、モーターパラグライダーを利用して空中から撮影した写真
2.地上撮影部門
上記の1に該当するもの以外
各賞と賞金:
両部門共通
・最優秀賞　1点　賞金10万円
空撮部門
・優秀賞　2点　賞金各3万円
・入選　数点以内　賞金各1万円
地上撮影部門
・ハンググライダー賞　1点　賞金3万円（ハンググライダー、モーターハンググライダーを中心とした作品）
・パラグライダー賞　1点　賞金3万円（パラグライダー、モーターパラグライダーを中心とした作品）
・入選　数点以内　賞金各1万円
審査員:別途ご案内します。
応募締切:2014年9月1日(月)必着
審査結果発表:2014年10月初旬（JHFホームページ上で発表し、入賞者にはメールで連絡します。）

*応募の条件と方法は、11ページをご覧ください。

2013年の事故を考える

JHF安全性委員会委員　桂　敏之

全国のスカイスポーツエリアで活動が活発となるシーズンを迎え、2013年と2014年に報告された大小の事故から、いま注意すべき事故の傾向と対策について考えてみます。

まず2013年以降に報告された事故15件を、JHFレポート203号の安全性委員会の記事で掲載したケースも含めて、「事故発生日／発生地／天候・風・平均風速～最大風速／事故者の年齢・技能証・経験年数／事故の経過／傷害・被害」の順で概要を掲げます。このうち死亡事故が5件（PG3件、MPG1件、HG1件）あります。

No.1　パラグライディング

2013年2月3日／千葉県
快晴・荒れ気味・～10m/s
34歳・教員・16年
強風下の係留浮揚による講習で予想以上に上昇し、サポートの教員が約5mの高さから草地へ落下／胸部など骨折の重症

No.2　ハンググライディング

2013年2月10日／三重県
曇り
教員
不安定な風況となり、B級パイロットがスタンバイ中にランチャー台の上から機体ごと3～4m下の山林地表へ転落し、サポートしていた教員もこれを止めようとして転落／傷害やその他の損害はなし

No.3　パラグライディング

2013年2月12日／埼玉県
曇り・やや荒れ気味・1～3m/s
68歳・P証・8年
着陸進入に失敗し民家の屋根に激突して転落／胸部骨折・死亡

No.4　パラグライディング

2013年5月15日／埼玉県
（風情報不明）
66歳・B級
着陸進入で強風で流されて電線に接触し吊り下がる／負傷はなし。送電線に損害を与え、救出作業に伴い送電を停止させた

No.5　モーターパラグライディング

2013年5月26日／秋田県
（風情報不明）
49歳・4年
離陸直後に低空で急旋回を行い、翼が潰れて砂浜へ激突／全身打撲で死亡

No.6　ハンググライディング

2013年6月8日／神奈川県
曇り・穏やか・2～4m/s
55歳・P証・20年
高度処理後、フォロー側からの低空進入を行い、ランディング場手前の法面にベースバーが接触し、パイロットの体が地面に当たった／腹部損傷で死亡

No.7　パラグライディング

2013年6月8日／新潟県
安定・1m/s
63歳・XC証・17年
エリア内の谷間の送電線に引っかかり約5時間後に関係機関により救出された。事故の様子は大きく報道された／負傷はなし。送電線に損害を与えた

No.8　パラグライディング

2013年6月16日／愛知県
曇り・3m/s
44歳・XC証・5年
タンデムフライトで着陸進入を誤り、手前へ酷着陸／パッセンジャーが背部打撲で軽症。送電引込線を切断

No.9　モーターパラグライディング

2013年6月23日／群馬県
晴れ・穏やか・2～4m/s
42歳・5年
着地時に横風にあおられて転倒し、駐車してあった車を損傷させた／負傷はなし。車両ボディーを損傷させた

No.10　モーターパラグライディング

2013年8月1日／北海道
57歳・P証・22年
撮影業務で飛行していたところ断崖の下に不時着した／足を骨折し重傷

No.11　パラグライディング

2013年9月21日／埼玉県
晴れ・穏やか・3～4m/s
60歳・NP証・4年
着陸進入で高度が高いまま進入し障害物に向かったところでフラットスピンに入り地面に激突／胸部打撲で死亡

No.12　パラグライディング

2013年9月22日／香川県
晴れ・穏やか
53歳・P証・6年
離陸したが着陸場に現れないため同行者らが捜索し、テイクオフの約50～100m下の岩場で発見され、その後死亡が確認された

No.13　パラグライディング

2013年10月26日／北海道
曇り・2m/s
75歳・教員・19年
タンデム飛行で着陸態勢に入ったところで数mほどの高さから落下／パイロットは死亡。パッセンジャーは背中を打つなど負傷

No.14　パラグライディング

2013年11月16日／鹿児島県
44歳・XC証・18年
着陸時に風にあおられ駐車車両に激突／足を骨折し重傷

No.15　パラグライディング

2014年2月9日／長野県
曇り・穏やか・3～5m/s
52歳・P証・12年
着陸時旋回中に翼がつぶれシューティングし落下／肩を骨折し重傷

これらの事故をふまえたうえで203号の記事では、機材整備・エリア管理・飛行判断についてより完璧に慎重に行っていくことと、パイロットの着陸技術の改善・向上が現在、求められている、としました。

では、これまでの事故を教訓に、安全性向上のため、さらに求められているのは、どんなことでしょうか。

より完璧に

「より完璧に」と言っても、すでに多くの進歩と努力がなされていて、過去に比べれば成果も上がっています。しか

し、それでもまだまだ事故が発生しており、事故の陰にひそむ危険な事例もそれだけあるのです。特に指導的立場にある人や経験の長い人は、これまでの経験や進歩に満足することなく、現状を客観的にとらえ、常に謙虚に、潜在的な危険性への想像力を働かせて、より良い技術・考え方を積極的に取り入れていくことが、重要です。

また、すべてのパイロットが、機材の安全チェック、パイロットの自己管理、飛行技量の練磨、飛行判断などについて、最新のレベルを保つこととそれを徹底することが、重要です。

飛行判断

飛行判断にしても、考えうる限り安全性を100%確保する、という態度が重要であり、それも99%では駄目だということです。昔からよく言われている「飛ばない勇気」ということにも通じますが、かつての少ない経験・情報量の中での飛ばない勇気に比べると、現在ではより進歩した確実で多様な気象情報の収集と過去の情報蓄積の中でのリスク評価が可能です。

基本技術の向上

着陸時の事故がいまも無くなりません。これに対しては、個々のパイロットがただ山で飛ぶのではなく、平地や練習場での、離着陸時のコントロールに関する基本技術の向上に積極的に取り組むことが必要です。

現在の進歩した確実で多様な気象情報は、こういった練習メニューを考えるうえでも有効です。そして、練習方法もより確実で楽しめるものへと進歩しています。

こういった技術面では、JHFでも昨年から各地でのハンググライディング安全セミナーを開催するなど、最新技術の紹介に努めています。

JHF総合保障制度2014年度募集スタート

フライヤー自身の怪我などに備えてスタートしたJHF総合保障制度の今年度募集が始まりました。以下は東京海上日動からJHFフライヤー会員の皆様へのお知らせです。

東日本大震災から３年が経ちました。被災された地域の皆様、そのご家族、関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、復興に向けご尽力されている関係の皆様方に敬意を表するとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

『JHF総合保障制度』とは

任意でご加入いただくフライヤーのための傷害保険です。搭乗中はもちろん、お仕事中も補償されます。また、地震等災害による怪我も対象となります。

ご注意いただきたいのですが、フライヤー登録をすると自動加入されるのは第三者賠償責任保険です。本保障制度はあくまでも任意でご加入いただく必要がございます。

2014年度募集がスタートします

今年度で９年目を迎える本保障制度は、2014年３月１日現在842名の方にご加入いただいております。引き続き安全フライトをお心がけいただくとともに、もしもの時のための本保障制度をご利用いただけますようお願い申し上げます。

◇2014年度制度改定内容

昨年度は近年の損害率の増加に伴い、団体割引が5%に削減されました。本年も引き続き5%の割引となっております。保険料は据え置きですが補償内容が変わります。パンフレット等でプラン毎の補償内容をご確認ください。

◇現在ご加入の皆様へ

更新のご案内を４月上旬に郵送致しました。必ず内容をご確認ください。

■変更あり…期日までに訂正の上ご返送ください。
■変更なし…自動継続となります。
ご返送不要です。
■解約…必ずご返送ください。

◇新規ご加入の皆様へ

ご加入をご希望される場合は、同封のパンフレット等をよくお読みいただきお申込みください。
※締切厳守…5月9日（金）必着

【保険に関するお問合せ先】
東京海上日動火災保険代理店
（株）東海日動パートナーズ・ノースワン
〒170-0013
東京都豊島区東池袋1-35-3
池袋センタービル10階
Tel 03−3907−4622
（月～金 9:00～17:00）
メールアドレス：info@tnp-n1.jp

第3回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト 作品募集！（9ページから続き）

応募の条件：
1.プロ、アマ、年齢を問いません。
2.未発表の作品に限ります。
3.応募に伴う費用は応募者の負担とします。

応募の方法：
・作品は印画紙（プリント）でご応募ください。スライド、フィルム、データの形式による応募はできません。
・銀塩フィルムでもデジタルカメラで撮影されたものでも応募できます。
・プリントサイズは、六つ切りからワイド四つ切、A4ノビ程度まで。
・カラー、モノクロ、ソフトウェアにより加工されたものも応募できます。
・入賞作品についてはデジタルカメラデータ等を提出していただきます。
・応募用紙に題名（ふりがな）、撮影場所、撮影年月日、氏名（ふりがな）、天地方向ほか必要事項を記入し、JHF事務局・フォトコンテスト係宛に作品と一緒に送ってください。

応募用紙はJHFウェブサイト（http://jhf.hangpara.or.jp/）からダウンロードしてください。

見る人が楽しくなる、飛びたくなる、そんな作品をお待ちしています！

前回フォトコン優秀賞作品。撮影：加藤文博

2013年クロスカントリーリーグ
年間チャンピオン決定!
仲間とともにより遠く、さらに遠くへ!

2013年12月31日までのフライトで、クロスカントリー(XC)リーグの年間チャンピオンが決まりました。パラグライディングでは160kmも出て白熱。海外ではありますが直線距離の公式日本記録更新もあり、今年もXCリーグは熱い展開を見せそうです。

XCには競技とは違った醍醐味があります。XC技能証を取ったら、ぜひリーグにご参加ください。では、チャンピオンからのひとことを……。

パラグライディングXCリーグ

1位　加藤　　豪　　　合計447.5km
2位　岩崎　拓夫　　　合計399.9km
3位　二三四藤昭　　　合計335.7km
最長記録　岩崎　拓夫　　160.2km

■2014年はさらに進化を
1位　加藤　豪

2012年ではエアークロスの竹内さんの記録を抜くことができず２位でしたが2013年ではXCリーグ１位になることができて嬉しく思います。

去年、印象に残っているフライトでは、ぼくが北房エリアからホームエリアである岩屋山を越して福知山まで飛んだこと、そして何よりもいつも一緒にクロカンに出ていた岩崎拓夫さんが丹波篠山を越え、国内記録を更新したことです。

今年もロールアウトで行っているチームフライトを活かし、去年よりも安全にそしてレベルの高い飛びをしていきたいと思っています。

去年は日本の色々なエリアから記録が出ました。今年はどんな記録が出るのか楽しみです。ぼくも負けないように今年もXCリーグ１位や記録更新を目指します。

チームフライトを活かし今年も日本一をめざす。

ハンググライディングXCリーグ

1位　砂間　隆司　　　188.88km
　4/27　岡山県大佐山→京都府亀岡市
2位　氏家　良彦　　　169.14km
　4/27　岡山県大佐山→兵庫県篠山市
3位　田中　　猛　　　167.44km
　4/27　岡山県大佐山→兵庫県篠山市

■力をつけるためにもXCを
1位　砂間 隆司

2013年４月27日、岡山県新見市の大佐山から、京都府亀岡市までフライトしました。直線距離188.88kmでした。

大佐山はクロスカントリー飛行に適した山として有名ですが、数年前にハンググライダーが飛べなくなる恐れがあり、坂東さん、川瀬さん、藤原さんをはじめ関係者の方のご努力のおかげで、現在も田んぼに水が入っていない時期は飛ぶことができています。ありがとうございます。

大佐山テイクオフポイントから。

さて、当日は、前週に天候不順で延期になった大佐山スプリングカーニバルの初日で、20人ほどのXCパイロットで賑わいました。最初にテイクオフした日本記録(213.7km)保持者の氏家さんや、仲間達と一緒に飛べたことで、大きく距離が伸びたと思います。

前半は西北西くらいの風でしたが、中盤からは北西の風で、最終的に亀岡盆地は北北西の風が吹き抜けていました。時間的にはもう少し飛べたのですが、最後にとっついた亀岡市東側の山並みも風が舐めていて、上げられませんでした。

春の大佐山からのXC飛行は、大佐山でのタービュランスや、コース途中に降りにくい区間があったりと、リスクもあり上級者向けですが、広範囲を飛んでいくと想像力が膨らみ、リスク管理に関してもよく考えるので、フライト技量の向上につながると思います。

是非、また一緒に飛んで日本記録を目指しましょう!

2014ハンググライディング日本選手権in板敷山スプリングフライト
ハング界最強・大門浩二、5度目の日本選手権獲得。
3月19日-23日　茨城県石岡市板敷山　　報告:競技委員長　大澤　豊　　撮影:田中 翔子、鈴木 康之

ハンググライディング日本選手権が板敷エリアで開催されるのは2010年以来、４年ぶりだ。ここ板敷は春の強いサーマルに乗り、北に延びる山沿いのクロカンロングタスク、西は北関東のフラットランドを自在にフライトできる日本屈指のフライトエリアだ。

景気は上昇傾向というものの円安による物価高や４月には消費税の増税をひかえた年度末でもあり、参加人数は54名と少ないが、熱い戦いを繰り広げようと選手達は集まった。

大門、田中がタスクをコンプリート

競技初日の19日は、前日の前線を伴った低気圧の通過で、天気はいいものの北東の強風。南から南西向きの板敷エリアでは飛べず、競技キャンセルとなる。選手たちは足尾エリアで練習や調整のためのフライトを行なった。

２日目は西から進む低気圧の影響で朝から冷たい雨となり、キャンセル。

３日目は前日通過した低気圧が北海道の東沿岸にあり、典型的な冬型の気圧配置で北西の爆風となり、この日も競技キャンセルとなってしまった。

４日目、西からゆっくりと張り出してきた高気圧の影響を受け、冬型の弱まった気圧配置となり、風はやや強めだが南西、やっと競技のできる天気となる。

気温減率も良くサーマルの予測は2000mオーバー、宇都宮から東側に弱風帯ができる予報に、組まれたタスクは板敷TO—益子駅—富谷山—花王工場—高峰山—内原ジャスコの83km。

11時のゲートオープンとともに次々と飛び出した選手達は、午前中にも関わらず順調に上げ12時のデパーチャーオープンを待つ。スタートは大半の選手が最初の12時。板敷上空と加波山に渡ってスタートを切る選手に分かれた。

スタート直後は順調だった選手達を待ち受けていたのは、激渋の空域の二往復だ。宇都宮付近にできたブルーホールの影響か（?）沈降性の逆転層のような空域が広がり、ほとんどの選手が益子付近の往復で力尽きランディング! そんな中でも単独でサーマルを探し、飛び続けた大門選手が2時間29分でゴール。30分が過ぎ、もう誰もゴールできないかと思い始めた時に、やはり一人で粘り強く飛んだ田中選手もゴールし、二人だけがこの日の難しいタスクをコンプリートした。

砂間を先頭に30人がゴール

最終日の23日も前日と変わらぬ弱い冬型だが、風は西から西北西の予報でテクオフが難しい条件となる。気温減率は良く高い雲底が予想されたが、全体の風は強めで弱風域は狭い範囲と予想されたのでタスクは短めの49.3km。板敷TO—豊後荘病院—吾国山—友部ジャンクション—内原ジャスコ—大洗ゴールが組まれた。

ゲートオープン前は北西のフォローが吹いて不安定だったこともあり、インターバルスタートは11時30分から5分刻みで12時30分まで。やや不安定な条件で10人以上の選手がメインランディング場にボムアウトした。しかしリーサイドのサーマルは強烈で2500mまで上げてスタートを切る選手もいるほどだった。

デパーチャーオープンの12時、最初にスタートを切ったのは岡田選手ただ一人。この後、12時5分にスタートした大門選手、田中選手ら20人ほどの選手が熱いデッドヒートを繰り広げた。吾国から友部ジャンクションは低い山並みのリーサイドになり、低めに動いた選手やコース取りを誤った選手は次々と脱落。オーバーキャスト気味になった第4ターンポイント・内原ジャスコ付近をクリアできたのは、9人の選手になっていた。

最終的にリフライトの選手も含め30人の大量ゴールとなったのだが、このスピードレースを制したのは、現時点で唯一、世界選手権の代表に決定している砂間選手。彼は49.3kmのタスクを58分、平均47.4km/hでファーストゴール。この日の最速タイムは12時25分スタートの石坂選手。55分37秒、平均49.6km/hという驚異的なスピードを記録した。

前日2位の田中選手はハング界最強の大門選手に果敢に勝負を挑むも1分以上引き離され三番目にゴール、ハング界の厳しさを再認識することとなった。

参加選手全員に素敵なドラマが

今回はめまぐるしく変わる春の天気に振り回された日本選手権となったが、2日間でデイクォリティー1.98となり、トータル32人のゴール者も出て日本選手権として成立した。

日本選手権を獲得したのは、実に5度目の大門浩二。また女子日本選手権者は昨年に続き礒本容子となり、安定した強さを示した。

入賞者の顔ぶれを見ると中堅選手や若手選手の頑張りも感じられるが、ベテランの外村も健在で、優勝者の大門に至っては、もはや課金無しでは絶対に勝てないゲームのラスボス的存在になりつつある。

テイクオフ上空でデパーチャーオープンを待つ。

競技人口は減少していますが、毎年こんな熱い戦いが行われています。競技なんて!っと敬遠している方も多いと思いますが、来年は参加して熱い戦いを間近に感じてみてはいかがですか。参加選手全員に素敵なドラマが待っています。

まだまだ至らない競技委員長ではありますが懸命にサポートしてくれる大会役員の皆さん、いつもありがとう。

参加した54名の選手の皆様、お疲れさまでした。

［総合］
1位　大門　浩二　茨城県
2位　田中　元気　神奈川県
3位　砂間　隆司　鳥取県
4位　小梶　渓太　茨城県
5位　外村　仁克　和歌山県
6位　太田　省吾　茨城県
［女子］
1位　礒本　容子　和歌山県
2位　谷古宇瑞子　栃木県
3位　内田　秀子　東京都

日本一を狙ってテイクオフした大門選手、百戦錬磨の実力を発揮。

1〜6位。超ベテラン、中堅、若手選手たち。

女子1〜3位。礒本、次の照準は世界選手権。

日本選手権者から

□大門 浩二

５度目の日本チャンピオンタイトル獲得への挑戦。地元エリアでの競技。変化に富む広範囲でのフライトで実力が反映されやすく楽しめる。スクールの生徒さんたちからたくさんの応援をいただいた。カミさんから賞品のお米ゲットの指令……などなどに後押しもされ、優勝を狙い臨みました。

あいにく前半が競技にならなかったので、残り２日間では絶対にミスできない戦いとなることを意識して、飛ばし過ぎず、抑えて確実に行く戦術に切り替えて飛ぶことにしました。

最初のタスクの花王パイロン付近では単独になり高度300mぐらいで最も危うい状況になりましたが、それを想定していたので、慎重に風とグライダーの反応を感じながらサーマルを捉えることができて、優位に立てました。２本目のタスクでは、田中選手との差が５分以内のタイムに収まれば優勝は固いと思いマークしていましたが、途中のパイロンで横に並んだ時には思わず手を振ってしまいました（笑）。

近年の競技では今回の田中選手のような中堅、若手の選手がすごく伸びてきており、誰が優勝してもおかしくない状況にあります。そんななか優勝できたことをとてもうれしく思います。

□礒本 容子

今回の日本選手権は、女子世界選手権前の大切な大会という大きな意味も含んでいましたので、守りと挑戦という二極化した思いがありました。前日まで迷いましたが、私がチョイスしたのは挑戦でした。

新機での大会は初めてでしたが、総合13位と、苦手なアウェイで少なからずある程度の手応えを得ることができたと思っています。

今後は課題に向かって努力し、女子世界選手では、上を目指していきたいと思いますので、応援よろしくお願いします。ありがとうございました。

第2回FAIパラグライディングアキュラシーアジア選手権
思わぬ逆転、タイが三冠。
3月12日-19日　マレーシア ラナウ　　報告:チームリーダー・選手　岡　芳樹

３月12日～19日の日程で、マレーシアのラナウ市で第２回アキュラシーアジア選手権が開催された。大会会場となったラナウ市はボルネオ島の北部、赤道近く（北緯６度）に位置する熱帯。晴れた昼間は、太陽がじりじりと照り付けサーマルも活発になるので、アキュラシーとしては、昨年の世界選手権同様、かなりトリッキーな場所だ。テイクオフの真後ろにはマレーシアの最高峰である標高4,095mの岩山キナバル山がそびえているが、たいていは雲に隠れていて全貌を見ることはまれだ。

今回日本からはチームメンバーとして男子５名（横井、岡、吉富、古賀、水野）女子２名（東武、伊藤）の計７名、それに個人参加となる古田選手を加え総勢８名が参加した。参加国は、マレーシア、タイ、中国、インドネシア、韓国、カザフスタン、シンガポール、日本の８か国。参加選手は52名であった。前回の第１回アジア選手権の主催国、台湾が参加していないのは残念であったが、代わりに次回アジア選手権の開催国であるカザフスタンと、FAIカテゴリー１の大会は初めてというシンガポールが参加してきたのは、今後に向け楽しみだ。強豪国であるインドネシアからはトップ選手達が政府からの援助がないことで参加を取りやめたり、同じく強豪国の中国からは、現世界チャンピオンが参加していなかったりと、少し拍子抜けの感じだが、それだけ日本にとっては有利になるのでチャンスであった。

競技は、はじめから決まっているレストデイを挟んで３日ずつの計６日で争われた。オーガナイザーの思いが天に通じたのか、期間中最も天気が悪かったのがレストデイで、毎日フライトができ、終わってみればカテ１大会初めてのMAX12ラウンドが成立するという素晴らしい結果となった。

これだけ飛べれば選手としては言い訳ができず、真摯に結果を受け入れざるを得ない。内容としては、昨年から好調をキープしている吉富選手が、破竹の勢いでパッドスコアを連発してチーム

マレーシア国旗の下、日本チーム集合。

テイクオフから熱帯の緑に囲まれたランディングを見る。

入賞選手たち。次回は日本の首位奪還を!

上位３チーム。上からタイ、日本、中国。

をけん引し、個人タイトルも十分狙える位置で最終ラウンドを迎えた。また、チームも第２ラウンドで一度中国に抜かれただけで終始トップをキープして最終ラウンドを迎えるという最高のお膳立てができたのだが、最後の最後で躓き、個人総合での表彰台とチーム金メダルを逃してしまった。全選手が、悔しさを胸に刻んだことと思う。これを肥やしに、今後の選手権に生かしてゆきたい。

最後にこの場をお借りして、サポートしていただいた全国のフライヤーの皆様にお礼を申し上げます。

［総合］
1位　TANAPAT LUANGIAM　タイ
2位　MA QIANG　中国
3位　MA LEI　中国
4位　JONI EFENDI　インドネシア
5位　吉富　周助
6位　NITHAD YANGJUI　タイ
7位　岡　芳樹
9位　東武　瑞穂
10位　水野　良信
14位　古賀　光晴
16位　横井　清順
17位　古田　岳史
39位　伊藤　まり子

［女子］
1位　NUNNAPAT PUCHONG　タイ
2位　東武　瑞穂
3位　CHANTIKA CHAISANUK　タイ
10位　伊藤　まり子

［チーム］
1位　タイ
2位　日本
3位　中国

学連ニュース

■全日本PG学生選手権報告

開催地：茨城県足尾山
日　程：2014年３月11日～３月14日

前線の動きが活発になり春の兆しも見えてきた３月中旬、今年で第18回となる大会の初日は、雲一つ無い晴天でしたが、生憎の強風のため競技は不成立となりました。午後は「エアパーク・COO」の宮田様のご厚意により急遽座学会を開いていただき、大会参加者一同の士気高揚となり、翌日の競技に備えその後は解散となりました。

２日目の朝、強風は収まり、受付を済ませた選手一同は山上げ用バンに機体を積み込み、テイクオフ場へと順次移動していきました。

今大会での各クラスの競技種目は、1stクラスがパイロンレース（クロスカントリー）、2ndクラスはデュレーション、Openクラスはターゲットを行いました。パイロンレースのタスク内容は「PGTO→足尾山頂→釣り堀→HGデコ山→猿鉄塔→430m尾根（通称：猿壁）→猿公→農協→MPGLD（モーパラランディング）→PGLD」でした。各クラス接戦を繰り広げ、デュレーションでは僅か数秒の時間差で上位ランクインを逃す選手がいるほどでした。また山沈やツリーラン等のアクシデントも起きず、無事２日目

初日は宮田さん（左から2人目）の座学会を。

2日目、ランディングする選手。

の競技を終えることができました。その夜にはレセプションが催され、全国の選手同士の交流が見られました。

３日目の朝は曇り空の下、競技をスタート。風も弱く、なんとか成立させられるかと思いきや、昼からはポツリポツリと小雨が降り始めたため、競技はOpenクラスのみの成立となり、午前の競技は一旦中止となりました。その後雨脚は弱まることもなく、風も強くなってきたため、その日の競技は全て中止となりました。

そして迎えた最終日は３日目と同様に朝から雨に降られ、しばらく様子を見るも天候回復の兆しは見られず、競技はキャンセルとなってしまいました。最終結果は下記のとおりです。

本大会には数多くの協賛を頂き、大変盛り上がりました。この場をお借りして協賛各社のみなさまに心より御礼申し上げます。加えて本大会をご支援してくださいましたインストラクターの方々及びスタッフの皆さん、そして参加選手の皆さん、本当にありがとうございました。今後もこうしたイベントを通して、全国各地のフライヤー同士の交流をより一層深めていければ良いと思います。

報告：大会実行委員長 高山竜
関東学連、足尾山エリア
東京都市大学（旧武蔵工業大学）
sky view代表

［1st class］
優　勝　齋藤　亘
準優勝　渡辺　陸
３　位　長井　陸

［2nd class］
優　勝　下条　大輝
準優勝　吉田　誠也
３　位　柴田　晃輔

［Open class］
優　勝　若杉　厚志
準優勝　田畑　万葉
３　位　橋本　茉子

［団体戦］
優　勝　ソアリングシステム
準優勝　足尾
３　位　FreeWave

優勝者を中央に選手、スタッフ、サポートが集合。

JHFからのお知らせ

■PG教本基礎技術DVD頒布中

基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」、続いて第2弾「テイクオフとランディング」を頒布しています。

「JHFパラグライディング教本基礎技術」には、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したものが2画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。リアライザーコントロールでの引きしろとブレークコードでの場合との違いや、A・Bストールを行ったときの翼の変形の様子などもわかります。

第2弾は、フライトの基本中の基本であるテイクオフとランディングを収録しており、フロントライズアップの基本から場周アプローチによるランディングまで、各操作のポイントをつかみやすい内容です。

価格・入手方法：

頒布価格はそれぞれ1枚1,500円(送料込)で、お申し込み30枚毎に1枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、最寄りのスクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは下記備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。備品の返却にかかる送料はご負担をお願いします。

◇自動体外式除細動器(AED)

公認大会やイベント主催者に無料で貸し出し。**申込条件：**消防署や日本赤十字社等のAEDを使った救命法講習会を受講した方がいること。

◇ポロジメーター

パラグライダーキャノピー等のエアー漏れを計測する機械。スクール・クラブ等を対象に貸し出し。貸出期間は2週間以内。貸出料5,000円。

◇スカイレジャー航空無線機

スカイスポーツ専用の周波数で使う無線機(465.1875MHz)。JHF会員を対象に、大会やイベントでのご利用のために貸し出し。貸出料は1,000円／台。**申込条件：**ご利用者の中に「第三級陸上特殊無線技士」免許を持ち、JHF無線従事者に登録している方が1名以上いること。

◇アルコール検知器

大会やイベント主催者に無料で貸し出し。前夜の飲酒がフライトに影響することもあります。事故防止のために導入しました。ご利用ください。国際航空連盟(FAI)もアンチドーピングの禁止物質にアルコールを指定しています。

■住所変更届けのお願い

JHFからお送りした登録更新案内やJHFレポートが「転居先不明」等で多数戻って来ます。また、登録更新のための会費送金手続きをコンビニでされた方、会費を口座振替にされている方へお送りした会員証も多く戻って来ています。コンビニから送金の場合は、払込票に新しいご住所をご記入いただいても控えが事務局に届きません。銀行口座振替の場合も住所変更の連絡は来ません。

住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでご連絡ください。

フライヤー会員No.／お名前／変更後のご住所／連絡先電話番号／メールアドレス

■各種お申込みやお問合せは JHF事務局へご連絡ください。

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟
〒114-0015
東京都北区中里1-1-1-301
TEL. 03-5834-2889
FAX.03-5834-2089
E-mail : info@jhf.hangpara.or.jp
http://jhf.hangpara.or.jp/

*JHF総合保障制度のご案内、賛助会員からのお知らせを同封しています。また、神奈川県、静岡県在住の方にはそれぞれ神奈川県ハング・パラグライディング連盟、静岡県フライヤー連盟からのお知らせも同封していますので、ご覧ください。

東日本大震災被災地復興応援プロジェクト「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱東京UFJ銀行(銀行コード0005)
巣鴨支店(店番号770)
口座番号　普通　0017991
口座名義　公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

あなたのデジタル無線機は登録済みですか？

デジタル無線機をご使用の皆様、無線機の登録手続きは、お済みですか?

JHFでは、ハンググライダーやパラグライダーの飛行中に使用する無線機として、デジタル無線機を推奨しています。

現在、国内で飛行中に使用できるデジタル無線機「携帯型デジタル簡易無線機登録局(上空利用)」は、スタンダード社のVX-291S とVXD450Sの2機種です。これらは簡単な登録手続きだけで利用できます。

既に購入、使用されている皆様も、必ず登録手続きを行い、利用料を払って運用してください。

登録申請をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰対象になります。うっかり登録忘れのないよう、ご確認をお願いします。

*各地区通信局では警察と共同で「不法無線局」の取り締まりを行っています。不法無線局を開設したり運用したりすると、1年以下の懲役または100万円以下の罰金に処せられます。

JHFレポート205号
発行日 :2014年(平成26年) 4月20日
発　行 :公益社団法人　日本ハング・パラグライディング連盟(JHF)
編　集 :JHF事務局
印　刷 :株式会社美巧社